



盲ろう

視覚と聴覚の両方に障害があることを「盲ろう」といいます。
盲ろうは、大きく分けて、次の4つのタイプがあります。

- **全盲ろう** 全く見えず、聞こえない状態
- **弱視ろう** 見えにくく、聞こえない状態
- **盲難聴** 全く見えず、聞こえにくい状態
- **弱視難聴** 見えにくく、聞こえにくい状態

また、「盲ろう」になる経緯も様々で、大きく次の4つに分けられます。

- **盲ベース盲ろう** 視覚障害があり、のちに聴覚障害を発症したもの
- **ろうベース盲ろう** 聴覚障害があり、のちに視覚障害を発症したもの
- **先天的盲ろう** 先天的に、あるいは乳幼児期に視覚と聴覚の障害を発症したもの
- **中途盲ろう** 途中で視覚と聴覚の障害を発症したもの

盲ろう者はこんなことに困っています

情報入手、コミュニケーション、移動などの様々な場面で大きな困難が生じます。自分の力だけで、情報を得たり、人と会話したり、外出・移動することが困難です。このため社会から孤立してしまうこともあります。

社会参加をするためには、情報入手、コミュニケーションの支援や移動の介助が不可欠です。そうした支援を受けて社会で活躍している人もたくさんいます。

生活環境や視覚障害と聴覚障害の程度、またその障害の発症時期により、コミュニケーションの方法が一人ひとり異なります。

家族や周りの支援者が、手のひらに文字を書いたり、触手話や指点字など、それぞれにあったコミュニケーション方法を生み出す努力と工夫をしています。



視覚や聴覚からの情報を入手することが難しいため、人とコミュニケーションをとることや外出など一人で移動すること、新聞やテレビなどから社会情勢など情報を入手することに困難が生じます。



社会生活の多くの場面で、盲ろう者とのコミュニケーションに習熟した専門の“通訳・介助員”の助けが必要となります。

盲ろう者と接する時は

ポイント1 まず、話しかけてみましょう

まず、そっと肩や手に触れて話しかけてみましょう。聴力が使える人もいます。相手が気づいてくれたら、やさしく手を取って、手のひらに文字を書いてみましょう。この方法でコミュニケーションをとることができる人もいます。このように、いろいろ試行してその人にあったコミュニケーション方法を見つけましょう。



ポイント2 周りの状況を説明することも大切です

盲ろう者は、お互いの会話の内容だけでなく、周りの状況も分かりません。他の人の発言や、「道沿いに赤い花が咲いている」などの情景や、その場の状況を知らせることも大切です。

ポイント3 様々な支援があることを伝えてください

コミュニケーションを取ることが難しいので、社会的に孤立しがちです。困難な状況にある方をみかけたら、様々な支援があることを伝えてください。

様々なコミュニケーション方法の一部を紹介します



手書き文字

手のひらに指先で文字を書き伝えます。



触手話

相手の行う手話に触れて、手話の形や動きを読み取ります。



指点字

点字タイプライターのキーの代わりに、盲ろう者の指を直接たたくて点字を表します。6本の指を点字の6点に見立てます。



音声

聴覚の活用が可能な方に対して耳元や補聴器のマイクなどに向かって話します。声の大きさ・抑揚・速さ・音の高さなど、聞こえ方に合わせた配慮が必要です。



文字筆記

視覚の活用が可能な方に対して紙やパソコンに文字を筆記して伝えます。文字の大きさ・間隔・線の太さなど見え方に合わせた配慮が必要です。

